

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	富永 真子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 広い視野で物事を捉え、感謝の心をもって積極的に学ぶ力をつけている。				

《授業の概要》

【保育士選択】【幼稚園教諭選択】  
日本の中学校までに学ぶ基礎文法を「使いこなす技能」を身に着ければ、英語での日常会話は可能です。  
再度、基礎をしっかりと学び、それらを応用し自信をもって自らの言葉で発話できるよう指導します。

《授業の到達目標》

他言語習得に必要な4技能（書く、読む、聞く、話す）の中で、瞬発力を要し、自然なコミュニケーションをとる「話す」ことに焦点をあて、基礎文法を応用し「自分自身の身の回りのことを、自分のオリジナルの言葉で伝えるようになる」ことを目標とする。

《成績評価の方法》

筆記試験 30%  
授業内実技 70%

《教科書》

教科書なし  
各自ノート2冊を準備する  
(1冊はオリジナルテキスト作成用)

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

授業内での英語での発表・発言に対し、その発音、強弱、表現力等を総合的に評価し「授業内獲得ポイント」として授業内に評価し通知する。最終的な期末試験(筆記)にそれらの合計点(70点満点)を加算する。

《成績評価基準》

- ・授業で学んだ文法を使用し、オリジナルの文章を作る応用ができているか。
- ・発音、表情、姿勢、声のトーンなど総合的に「自然な表現」ができているか。

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション(評価の説明など)	復習: 講義内容をノートにまとめる(1時間)
2	聞き取れない時の対応の仕方	復習: 講義内容をノートにまとめる(1時間)
3	聞き取れない時の対応の仕方	復習: 講義内容をノートにまとめる(1時間)
4	文章の種類(Be動詞かDo動詞)を区別する①	復習: 講義内容をノートにまとめる(1時間)
5	文章の種類(Be動詞かDo動詞)を区別する	復習: 講義内容をノートにまとめる(1時間)
6	文章の形(肯定分、否定文、疑問文)①	復習: 講義内容をノートにまとめる(1時間)
7	文章の形(肯定分、否定文、疑問文)	復習: 講義内容をノートにまとめる(1時間)
8	文章の形(肯定分、否定文、疑問文)	復習: 講義内容をノートにまとめる(1時間)
9	時制について(現在、過去、進行形)①	復習: 講義内容をノートにまとめる(1時間)
10	時制について(現在、過去、進行形)	復習: 講義内容をノートにまとめる(1時間)
11	時制について(現在、過去、進行形)	復習: 講義内容をノートにまとめる(1時間)
12	頻度の高い動詞句(希望、強制、予定)①	復習: 講義内容をノートにまとめる(1時間)
13	頻度の高い動詞句(希望、強制、予定)	復習: 講義内容をノートにまとめる(1時間)
14	接続詞で複数文章をつなげる、まとめ	復習: 講義内容をノートにまとめる(1時間)
15	試験、まとめ	半期に学んだことを総復習する

《基礎科目》

科目名	中国語				
担当者氏名	藤井 芳子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 広い視野で物事を捉え、感謝の心をもって積極的に学ぶ力をつけている。				

《授業の概要》

1. 中国語でコミュニケーションを取る為に必要な基本を学ぶ。
2. 言語はコミュニケーションの為に道具とされているので、義務教育で学んだ英語と比較しながら習得し、より多くの人と意見交換や感情表現ができる事を意識して学ぶ。
3. 将来の仕事にも生かせる様に、検定試験をも視野に入れて学ぶ。

《教科書》

グッと入門中国語(株)金星堂  
 芦田久美子・氷野善寛・王牧 著  
 (中日・日中辞典、音節表、中国地図、漢字ドリル付)

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

教科書に対応した課題プリントに取り組む。  
 採点の上返却されるので各自がしっかりと確認できる。  
 訂正ヶ所があれば、再提出する事により確実に習得する。

《授業の到達目標》

1. 中国の地理や歴史、文化などに興味を持ち知識を深める。
2. 漢字(簡体字)がより多く、正しく書けるようになる。
3. 日本語とは違う漢字の意味を正しく知り、筆談が出来たり、SNSなどで発信された記事が読み取れるようになる。
4. 自己紹介が中国語で言えるようになる。
5. 数字、年月日、時間がスムーズに言えるようになる。
6. 日本語とは違う語順や文法を学ぶ事で、文章が作れる。

《成績評価基準》

1. 教科書に正しく記入できている。
2. 課題プリントに記入して提出する。  
漢字を正しく覚える。  
リスニング力の確認。
3. 入退室時に中国語にて挨拶をし、発音をチェックする。
4. 自己紹介プリントにより、発音の練習をする。

《成績評価の方法》

筆記試験(期末) 40%  
 課題プリント提出 40%  
 授業の取組 20%  
 (正しく発音できているか、中国語で挨拶できているか等)

《参考図書》

中国語検定試験の解説本など、適宜紹介。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	【オリエンテーション】 教科書の使い方説明等	この授業における達成目標を立てる。(予習30分) 中国と日本で使われる文字の違いを知る。(復習30分)
2	【中国について/声調】 地理や歴史等を知る	教科書の索引や地図に目を通す。(予習30分) 中国についての知識を得る。声調の練習。(復習30分)
3	【発音の基礎1】 母音/子音の練習	ピンイン(発音記号)とは何かを知る。(予習30分) ピンインが読めて書けるようになる。(復習30分)
4	【発音の基礎2】 複母音/鼻母音の練習	声調符号の付け方を知る。(予習30分) 中国語文字(簡体字)を見て、意味を知る。(復習30分)
5	【発音の基礎3】 発音のまとめ	発音には変調やアル化が有ることを知る。(予習30分) ウォーミングアップのページを見て数字が言えるようになる。(復習30分)
6	【自己紹介の練習1】 自分の名前の中国語読み	自分の名前の中国語読みを調べる。(予習30分) 自己紹介の為に誕生日や年齢が言えるようになる。(復習30分)
7	【自己紹介の練習2】 簡単な自己紹介が出来る	簡単な挨拶が言える。(予習30分) 自己紹介の練習。同級生の名字も言えるようになる。(復習30分)
8	【第1課】 新出単語と会話文	【第1課】新出単語の日本語訳を見て、会話文の内容を知る。(予習30分) 漢字ドリルの記入と新出単語を覚える。(復習30分)
9	【人称代名詞】 私/彼は～です。	人称代名詞の色々を知る。(予習30分) 言い換え練習が出来るようになる。(復習30分)
10	【第2課】 新出単語と会話文	【第2課】新出単語の日本語訳を見て、会話文の内容を知る。(予習30分) 漢字ドリルの記入と新出単語を覚える。(復習30分)
11	【指示代名詞/疑問詞】 これ/あれは～です。	指示代名詞/疑問詞の色々を知る。(予習30分) 言い換え練習が出来るようになる。(復習30分)
12	【第3課】 新出単語と会話文	【第3課】新出単語の日本語訳を見て、会話文の内容を知る。(予習30分) 漢字ドリルの記入と新出単語を覚える。(復習30分)
13	【動詞述語文/時間】 いつ/どこで/何を。する。	動詞述語文の作り方や「いつ/どこで/何を」の語順を知る。(予習30分) 言い換え練習が出来るようになる。(復習30分)
14	【総まとめ】 前期の復習	前期の復習をする。(予習30分) 練習問題を解いてみる。(復習30分)
15	【総まとめ】 習得出来ているかの確認	期末試験として、前期総まとめの問題を解く。(予習30分) 疑問点を確認し解決する。(復習30分)

《専門科目》

科目名	幼児教育教師論				
担当者氏名	溝上 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。				

《授業の概要》

【保育士選択】【幼稚園教諭必修】

過去の歴史を踏まえつつ、今日の幼児教育の理念や理論を理解し、幼児教育に携わることの意義、教師の役割について理解を深める。また、法が求める教師の要件やこれからの幼児教育に求められる教師像を認識し、保育者としての資質・能力の基盤を培う。授業では、実習での体験や実践事例のグループワーク分析等を通して、実践的な基礎力を身につける。

《授業の到達目標》

日本における幼児教育や保育者の社会的な意義を理解し、教育の動向を踏まえて保育者の今日的な役割や資質・能力について説明できる。

保育者の職務内容の全体像や保育者に課せられた服務上・身分上の意義を理解し、自分の理想とする保育者像が語れる。

保育施設の今日的役割を認識し、専門家や地域等との連携やチームとしての組織的な取組の必要性を理解し説明できる。

《成績評価の方法》

筆記試験 60%

課題 20%

授業の取組 20%

《教科書》

田中卓也他『子どもとともに未来をデザインする保育者論・教育者論』わかば社、2020年

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出した課題レポートについては、2週間以内に評価し返却する。  
筆記試験については、総括・まとめの時間で解説の時間を設ける。

《成績評価基準》

日本における幼児教育や保育者の社会的な意義を理解し、保育者の今日的な役割や資質・能力について説明できたか。

保育者の職務内容の全体像や保育者の服務上・身分上の意義を理解し、自分の理想とする保育者像が語れたか。

保育施設の今日的役割を認識し、専門家や地域等との連携やチームとしての組織的な取組の必要性を理解し説明できたか。

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館(2018) 秋田喜代美編『今に生きる保育者論〔第4版〕』みらい(2019)

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション・教職の社会的意義	教科書pp. 8～13に目を通しておくこと。2時間 今回の授業で学んだ内容の復習(ワークシートの活用)。2時間
2	保育の特質/人格形成の基礎を培う意義	教科書pp.13～23に目を通しておくこと。2時間 今回の授業で学んだ内容の復習(ワークシートの活用)。2時間
3	教職観の変遷と保育・教育の歴史	教科書pp.24～35に目を通しておくこと。2時間 今回の授業で学んだ内容の復習(ワークシートの活用)。2時間
4	幼稚園・保育所等における子どもの生活	教科書pp.36～49に目を通しておくこと。2時間 今回の授業で学んだ内容の復習(ワークシートの活用)。2時間
5	法令等に見る教員の資質・能力と教職の役割	教科書pp.50～59に目を通しておくこと。2時間 今回の授業で学んだ内容の復習(ワークシートの活用)。2時間
6	子どもの成長と発達	教科書pp.60～65に目を通しておくこと。2時間 今回の授業で学んだ内容の復習(ワークシートの活用)。2時間
7	子どもの理解とクラス(集団)づくり	教科書pp.66～77に目を通しておくこと。1時間 今回の授業で学んだ内容の復習(ワークシートの活用)。1時間
8	教職の職務内容について(環境を生かす)	教科書pp.78～85に目を通しておくこと。2時間 今回の授業で学んだ内容の復習(ワークシートの活用)。2時間
9	専門的知識を理解する/保育技術	教科書pp.86～99に目を通しておくこと。2時間 今回の授業で学んだ内容の復習(ワークシートの活用)。2時間
10	様々な子どもや保護者への支援/子育て支援	教科書pp.100～109に目を通しておくこと。2時間 今回の授業で学んだ内容の復習(ワークシートの活用)。2時間
11	保育者・教育者のメンタルヘルス	教科書pp.110～115に目を通しておくこと。2時間 今回の授業で学んだ内容の復習(ワークシートの活用)。2時間
12	チーム学校運営の必要性の理解/幼・保・小連携	教科書pp.115～122に目を通しておくこと。2時間 今回の授業で学んだ内容の復習(ワークシートの活用)。2時間
13	地域環境の変化についての理解	教科書pp.123～133に目を通しておくこと。2時間 今回の授業で学んだ内容の復習(ワークシートの活用)。2時間
14	保育者に求められる研修/今後の課題	教科書pp.134～142に目を通しておくこと。2時間 今回の授業で学んだ内容の復習(ワークシートの活用)。2時間
15	総括・まとめ	前週に説明した重点内容に目を通しておくこと。2時間 今回の授業で学んだ内容の振り返り。2時間

《専門科目》

科目名	子ども家庭支援論				
担当者氏名	永瀬 枯緑				
授業方法	講義	単位・必修	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。				

《授業の概要》

【保育士必修】

子育て家庭を取り巻く社会状況や子育て家庭の抱える問題への理解を深め、保育士としての基本姿勢や支援内容、それを実践するための方法、技術等について学ぶ。講義形式を基本とするが、事例を通してグループで検討するなど、必要に応じて演習形式を取り入れる。

《教科書》

「子ども家庭支援論」 監修 公益財団法人 児童育成協会  
編集 松原康夫 村田典子 南野奈津子 中央法規 2019

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

試験問題に対する振り返りや解説の時間を設ける。

《授業の到達目標》

- ・子育て家庭に対する支援の意義・目的について要約して述べるができる。
- ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本と実際を事例において関係付けて示すことができる。
- ・子ども家庭に対する支援の体制を整理して述べるができる。

《成績評価基準》

- ・子育て家庭に対する支援の意義・目的について要約して述べるができるようになったか。
- ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本と実際を事例において関係付けて示すことができるようになったか。
- ・子ども家庭に対する支援の体制を整理して述べるができるようになったか。

《成績評価の方法》

筆記試験 80%  
授業の取組 20%

《参考図書》

なし

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	子ども家庭支援の意義と必要性	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
2	子ども家庭支援の目的と機能	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
4	子ども家庭の福祉を図るための社会資源	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
6	子どもの育ちの喜びの共有	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
7	保護者および地域が有する子育て力への支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
8	保育士に求められる基本的態度	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
9	家庭の状況に応じた支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
10	地域資源の活用と関係機関との連携・協力	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
11	子ども家庭支援の内容と対象	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
12	保育所を利用する子どもの家庭への支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
13	地域の子育て家庭への支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
14	要保護児童およびその家庭に対する支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
15	子育て支援に関する課題と支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)

《専門科目》

科目名	相談援助				
担当者氏名	溝上 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。				

《授業の概要》

【保育士選択】【幼稚園教諭必修】

相談援助活動における教育相談を中心に授業を行う。事例をもとに幼児等の発達状況に即しつつ、個々の心理学的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（相談の意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。授業では、ワークシートや事例についてのグループ・ディスカッション等を通して実践的な基礎力を培う。

《授業の到達目標》

1. 学校・園における教育相談の意義と理論、課題を整理し要約できる。
2. 幼児の不応や問題行動等に気付き把握する方法を事例に即して表現できる。
3. 相談の基礎的な姿勢や技法を理解し適用できる。
4. 教育相談の計画の作成と校・園内体制の整備、地域の専門機関との連携の必要性を関係付けて表現できる。

《成績評価の方法》

筆記試験 60%  
課題 20%  
授業の取組 20%

《教科書》

西本絹子『教師のための教育相談』萌文書林、2018年

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出したレポートについては、2週間以内に評価し返却する。筆記試験については、総括・まとめの時間で解説の時間を設ける。

《成績評価基準》

1. 教育相談の意義と理論、課題を整理し要約できたか。
2. 幼児の不応や問題行動等に気付き把握する方法を事例に即して表現できたか。
3. 相談の基礎的な姿勢や技法を理解し適用できたか。
4. 教育相談の計画の作成と校・園内体制の整備、地域の専門機関との連携の必要性を関係付けて表現できたか。

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 ・ 『保育所保育指針解説』フレーベル館 ・ 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション / 相談援助について	教科書pp.11~18に目を通しておくこと。30分間。 今回の授業で学んだ内容の復習。ワークシートの活用。30分間
2	教育相談とは何か	教科書pp.19~30に目を通しておくこと。30分間 今回の授業で学んだ内容の復習。ワークシートの活用。30分間
3	教育相談・相談援助の理論	教科書pp.31~42に目を通しておくこと。30分間 今回の授業で学んだ内容の復習。ワークシートの活用。30分間
4	教育相談・相談援助の技術 / 傾聴	教科書pp.43~54に目を通しておくこと。30分間 今回の授業で学んだ内容の復習。ワークシートの活用。30分間
5	教育相談・相談援助の技術 / 保護者との関係性	教科書pp.55~70に目を通しておくこと。30分間 今回の授業で学んだ内容の復習。ワークシートの活用。30分間
6	子ども理解 / 発達の視点から子どもを理解	教科書pp.71~80に目を通しておくこと。30分間 今回の授業で学んだ内容の復習。ワークシートの活用。30分間
7	子ども理解 / 問題のアセスメント	教科書pp.81~92に目を通しておくこと。30分間 今回の授業で学んだ内容の復習。ワークシートの活用。30分間
8	子ども理解 / 問題行動の捉え方	教科書pp.93~104に目を通しておくこと。30分間 今回の授業で学んだ内容の復習。ワークシートの活用。30分間
9	いじめ問題への対応	教科書pp.105~120に目を通しておくこと。30分間 今回の授業で学んだ内容の復習。ワークシートの活用。30分間
10	不登校(園)への対応	教科書pp.121~134に目を通しておくこと。30分間 今回の授業で学んだ内容の復習。ワークシートの活用。30分間
11	気になる子どもへの対応 / 理解と支援の考え方	教科書pp.135~148に目を通しておくこと。30分間 今回の授業で学んだ内容の復習。ワークシートの活用。30分間
12	気になる子どもへの対応 / 支援の実際の基礎	教科書pp.149~166に目を通しておくこと。30分間 今回の授業で学んだ内容の復習。ワークシートの活用。30分間
13	保護者への対応 / 気になる子の保護者への対応	教科書pp.167~179に目を通しておくこと。30分間 今回の授業で学んだ内容の復習。ワークシートの活用。30分間
14	保護者への対応 / 不適切な養育環境への対応	教科書pp.179~198に目を通しておくこと。30分間 今回の授業で学んだ内容の復習。ワークシートの活用。30分間
15	相談援助・教育相談の総括・まとめ	前週に説明した重点内容に目を通しておくこと。1時間

《専門科目》

科目名	子どもの食と栄養				
担当者氏名	大仁田 あずさ				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。				

《授業の概要》

【保育士必修】

保育所保育指針では、保育所における食育は、健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標としている。本科目では、子どもの栄養・食生活が生涯にわたる健康と生活の基盤であることを理解し、さらに正しい栄養の基本的知識や子どもの発育・発達段階に応じた適切な栄養摂取および関連する栄養問題等について学ぶ。

《教科書》

「新・基本保育シリーズ 子どもの食と栄養」堤ちはる・藤澤由美子編、中央法規

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

試験のフィードバックとして、試験内容に対する解説の時間を設ける。

《授業の到達目標》

1. 栄養の基本的知識である栄養素の種類や機能を説明できる。
2. 子どもの栄養・食生活の特徴を理解し、発育・発達段階に応じた適切な食生活のあり方について説明できる。
3. 乳児期の授乳・離乳の意義とその実践の方法について具体的に述べるができる。
4. 健康の保持増進、生活習慣病予防のための食生活について理解し、自身が健康的で豊かな食生活を実践することができる。

《成績評価基準》

成績評価は筆記試験、課題提出、受講態度等を鑑み評価する。

《成績評価の方法》

筆記試験80%  
課題10%  
授業の取組10%

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション 子どもの健康と食生活	予習：教科書 p.1~3を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
2	子どもの食生活の現状と課題	予習：教科書 p.4~9を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
3	栄養の基本 食べ物のゆくえ	予習：教科書 p.13~19を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
4	栄養素の種類と働き 炭水化物	予習：教科書 p.22~27を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
5	栄養素の種類と働き 脂質、たんぱく質	予習：教科書 p.27~29を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
6	栄養素の種類と働き ミネラル、ビタミン	予習：教科書 p.30~36を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
7	日本人の食生活の目標	予習：教科書 p.37~48を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
8	献立作成・調理の基本	予習：教科書 p.49~60を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
9	妊娠期・授乳期の栄養と食生活	予習：教科書 p.10~12, 99~101を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
10	乳児期の授乳の意義と食生活 乳児期の栄養	予習：教科書 p.61~63を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
11	乳児期の授乳の意義と食生活 母乳、人工栄養	予習：教科書 p.63~72を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
12	乳児期の離乳の意義と食生活 離乳の定義	予習：教科書 p.73~75を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
13	乳児期の離乳の意義と食生活 離乳の進め方	予習：教科書 p.75~81を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
14	乳児期の離乳の意義と食生活 離乳期の食問題	予習：教科書 p.82~84を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
15	まとめ	予習：これまでの講義資料とノートの整理をしておくこと(30分) 復習：授業ノートをもとにこれまでの講義内容を確認する(30分)

《専門科目》

科目名	教育課程総論				
担当者氏名	井上 和子				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。				

《授業の概要》

【保育士選択】【幼稚園教諭必修】

幼児期の教育の意義や特性について理解を深めるとともに、幼稚園教育要領に基づき編成された教育課程とそれを実践していくための指導計画について学ぶ。その上で、幼児の心身の発達・保育の実態・地域の実態等に応じた指導計画が作成できるように、テーマ別に実践事例を学び、現場で求められているカリキュラム・マネジメントとは何かを理解する。

《授業の到達目標》

- 1, 幼稚園教育要領を基準とした各幼稚園において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を学ぶ。
- 2, 教育課程と、幼稚園の様々な保育計画を関連させ教育目標が達成されるよう具体的に作成された指導計画を関係づける。
- 3, テーマ別に実践事例を調べていくことで、教育課程や指導計画にはカリキュラム・マネジメントが必要であることが分かる。

《成績評価の方法》

筆記試験 80% レポート %  
 課題 10% 実技 %  
 授業の取組 10%  
 その他 ( ) %

《教科書》

- ・『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』 文部科学省（フレーベル館）
- ・『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

試験・課題のフィードバックとして、講評や解説の時間を設ける

《成績評価基準》

成績評価は、筆記試験、課題提出、受講態度等の総合的基準で評価する。

《参考図書》

- ・『教育課程総論』小田豊・神長美津子編著（北大路書房）
- ・『あたらしい幼児教育課程総論』岸井勇・横山文樹著（同文書院）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	教育課程の意義と役割	・『幼稚園教育要領解説』p24～p26・p74～p77を熟読しておくこと。(30分) ・講義中に板書したノートを整理しておくこと。(30分)
2	教育課程の基本的な考え方	・『幼稚園教育要領解説』p79～p95を熟読しておくこと。(1時間) ・講義中に板書したノートを整理しておくこと。(30分)
3	保育内容の歴史的系譜	・『幼稚園教育要領解説』p2～p21を熟読しておくこと。(1時間) ・講義中に板書したノートを整理しておくこと。(30分)
4	現代の保育内容	・『幼稚園教育要領解説』p272～p276を熟読しておくこと。(30分) ・講義中に板書したノートを整理しておくこと。(30分)
5	教育課程の編成	・『幼稚園教育要領解説』p50～p73を熟読しておくこと。(1時間) ・講義中に板書したノートを整理しておくこと。(30分)
6	教育課程の意義と省察・評価と改善	・『幼稚園教育要領解説』p104・p131～132を熟読しておくこと。(30分) ・講義中に板書したノートを整理しておくこと。(30分)
7	「学校教育のはじまり」としての幼稚園教育	・テキストp2～p9を熟読しておくこと。(30分) ・講義中に板書したノートを整理しておくこと。(30分)
8	幼稚園教育における指導性	・テキストp10～p22を熟読しておくこと。(1時間) ・講義中に板書したノートを整理しておくこと。(30分)
9	指導計画の意義	・テキストp23～p45を熟読しておくこと。(1時間) ・講義中に板書したノートを整理しておくこと。(30分)
10	小学校の教育課程との接続と指導計画	・テキストp46～p58を熟読しておくこと。(1時間) ・講義中に板書したノートを整理しておくこと。(30分)
11	指導計画に当たっての基本的な考え方	・テキストp60～p68を熟読しておくこと。(30分) ・講義中に板書したノートを整理しておくこと。(30分)
12	指導計画の作成の具体的な手順とポイント	・テキストp69～p100を熟読しておくこと。(1時間) ・講義中に板書したノートを整理しておくこと。(30分)
13	実践事例 長期と短期の指導計画	・テキストp110～p112,p136～p147を熟読しておくこと。(1時間) ・講義で学んだ実践事例について、もう一度テキストを丁寧に読み、詳細に確認すること。(30分)
14	実践事例 小学校との円滑な接続を図る指導計画	・テキストp148～p157を熟読しておくこと。(1時間) ・講義で学んだ実践事例について、もう一度テキストを丁寧に読み、詳細に確認すること。(30分)
15	実践事例 指導計画の評価・改善のポイント	・テキストp216～p221を熟読しておくこと。(30分) ・講義で学んだ実践事例について、もう一度テキストを丁寧に読み、詳細に確認すること。(30分)

《専門科目》

科目名	幼児と人間関係				
担当者氏名	富永 明子				
授業方法	講義	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。 1-DP4 他者とのコミュニケーション能力も含めた表現力が身についている。				

《授業の概要》

【保育士選択】【幼稚園教諭必修】  
 幼児が人間関係において発達していく構造とプロセスについての基礎知識と理論を、テキストに沿って講義により学ぶ。その前提となる自分自身の人間関係理解につながる考察も行う。また、構成事例や視聴覚教材を通して、幼児教育・保育現場の具体的な場面について考察し、小グループで意見交換を行い、より理解を深める。

《授業の到達目標》

1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「人間関係」について概説できる
2. 幼児の人間関係力の育ちに関する基本事項を説明できる
3. 幼児の人間関係をめぐる現代的課題について問題意識を持つことができる
4. 保育現場で、関係発達論的視点から幼児の人間関係をとらえ、適切な対応を想定することができる

《成績評価の方法》

筆記試験 80% レポート 10%  
 課題 % 実技 %  
 授業の取組 10%  
 その他 ( ) %

《教科書》

「ワークで学ぶ保育内容『人間関係』」菊地篤子著、みらい

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

レポートについては必要に応じたコメントをつけて2週間以内に返却する。  
 筆記試験の後は解説を行う。

《成績評価基準》

学んだ知識・理論等を、暗記レベルではなく自分自身の言葉で説明できるような理解、説明ができるか。  
 授業に意欲を持って取り組み、理解したことを適切に表現できるか。

《参考図書》

「体験する・調べる・考える領域人間関係」田宮縁、萌文書林

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション / 「人間関係」とは	予習：教科書の「はじめに」～p13を読み、授業の流れを把握する(30分) 復習：教科書を読み直し、授業内容を整理する(30分)
2	子どもを取り巻く現代社会の状況	予習：教科書 p13～18を読む(30分) 復習：教科書を読み直し、授業内容を整理する(30分)
3	子どもの人間関係	予習：教科書 p18～21を読む(30分) 復習：教科書を読み直し、授業内容を整理する(30分)
4	領域「人間関係」におけるねらいと内容	予習：教科書 p24～30を読む(30分) 復習：教科書を読み直し、授業内容を整理する(30分)
5	園生活で育まれる「人間関係」	予習：教科書 p31～35を読む(30分) 復習：教科書を読み直し、授業内容を整理する(30分)
6	人との関わりの発達 乳児期	予習：教科書 p36～45を読む(30分) 復習：教科書を読み直し、授業内容を整理する(30分)
7	人との関わりの発達 幼児期前期	予習：教科書 p46～58を読む(30分) 復習：教科書を読み直し、授業内容を整理する(30分)
8	人との関わりの発達 幼児期後期	予習：教科書 p59～70を読む(30分) 復習：教科書を読み直し、授業内容を整理する(30分)
9	子どもの自立と保育者の関わり	予習：これまでの授業をふり返し、内容を整理しておく(30分) 復習：授業内容を整理する(30分)
10	子どもの共同性と保育者の関わり	予習：これまでの授業をふり返し、内容を整理しておく(30分) 復習：授業内容を整理する(30分)
11	社会性の育ち	予習：教科書 p71～76を読む(30分) 復習：教科書を読み直し、授業内容を整理する(30分)
12	道徳性の育ち	予習：教科書 p76～82を読む(30分) 復習：教科書を読み直し、授業内容を整理する(30分)
13	家庭・地域との関わりと発達	予習：教科書 p83～97を読む(30分) 復習：教科書を読み直し、授業内容を整理する(30分)
14	子どもたちのモデルとなる保育者の人間関係	予習：教科書 p98～103を読む(30分) 復習：教科書を読み直し、授業内容を整理する(30分)
15	子どもの人間関係を支える育ち / まとめ	予習：授業全体をふり返し、質問を考えておく(30分) 復習：授業内容を整理する(30分)



《専門科目》

科目名	幼児と環境				
担当者氏名	高丘 有季乃				
授業方法	講義	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。				

《授業の概要》

【保育士選択】【幼稚園教諭必修】

- (1) 幼児を取り巻く環境と幼児の発達にとっての意義を理解する。
- (2) 乳幼児期の思考、情緒的理解と科学的理解について実践事例より理解する。
- (3) 幼児の身近にある標識・記号・文字等、情報・施設等のかかわりを理解する。

《授業の到達目標》

- (1) 幼児を取り巻く環境の諸側面と幼児の発達にとっての環境にかかわることの意義について説明できる。
- (2) 乳幼児期の認知的発達の特徴と、生物・自然とのかかわりから興味・関心について説明できる。
- (3) 幼児の身近な標識・記号・文字等、それらが幼児の生活やあそびとの関連から説明できる。

《成績評価の方法》

筆記試験	50 %
レポート	40 %
授業の取組	10 %

《教科書》

特に指定しない、適宜資料を配付する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

前回のリアクションペーパーを基に授業のはじめに確認、共有化を図る。

《成績評価基準》

授業への取り組み姿勢、リアクションペーパー50%  
試験50%

《参考図書》

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館2018  
高橋・目良編著「コンパス保育内容環境」建帛社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション、受講にあたっての授業概要	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分
2	環境とは何か、幼児を取り巻く環境	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分
3	法令法規から身近な環境との関わりに関する領域	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分
4	実践事例より環境にかかわるとは	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分
5	実践事例の分析と意味づけ	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分
6	幼児期に必要な体験	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分
7	保育室内環境と戸外環境で育つ力	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分
8	幼児の身近な標識・記号・文字等	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分
9	幼児の興味・関心、探求心から情緒的・科学的理解	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分
10	自然とのかかわりから育つ力	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分
11	数助詞の使い方	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分
12	生活やあそびをとおしての学び	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分
13	幼児の育ちとメディア環境	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分
14	身近な環境、情報に目を向け興味・関心、探求心	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分
15	まとめと課題	予習：授業計画から60分 復習：授業内容60分

《専門科目》

科目名	保育内容「健康」の指導法				
担当者氏名	川畑 和也				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP4 他者とのコミュニケーション能力も含めた表現力が身につけている。				

《授業の概要》

【保育士必修】【幼稚園教諭必修】

心身の健康に関する領域「健康」のねらいと内容及び内容の取り扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身につける。特に、乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発達・発達、運動発達の特徴の理解を深め、情報機器を活用しながら適切な指導方法を身につける。

《授業の到達目標》

- 1 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された「健康」のねらい及び内容や内容の取り扱いに関する専門的知識を習得する。
- 2 子どもの発達発育に即して、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点について理解し、情報機器等を活用することができる。
- 3 指導案を立案し、実践することができる。
- 4 模擬保育の実践について反戦し、次の保育へ生かすための課題を見出し明確にすることができる。

《成績評価の方法》

課題50%  
授業の取組50%

《教科書》

子どもの姿からはじまる領域・健康（2020年）秋田喜代美ら（監）國土将平ら（編）みらい

《課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法》

授業内の課題やアクションペーパー等の提出物に関しては、理解度を確認し、次の授業内で返却、解説する。

《成績評価基準》

- 1 「健康」のねらい及び内容や内容の取り扱いに関する専門的知識を習得し、説明できたか。
- 2 子どもの発達発育の特徴を踏まえた指導上の留意点について、情報機器等を活用しながら理解できたか。
- 3 指導案を立案し、実践することができたか。
- 4 模擬保育の実践について反戦し、次の保育へ生かすための課題を見出し明確にすることができたか。

《参考図書》

幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼児期運動指針

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	心身の健康に関する領域「健康」	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領を精読する(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)
2	領域「健康」のねらいと内容について	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領を精読する(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)
3	領域「健康」の内容の取り扱いについて	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領を精読する(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)
4	現代の子どもの現状と健康課題について	自分の乳幼児期の健康状態について調べる(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)
5	子どもの身体の発達について	出生児から就学前前の自分の身長、体重について調べる(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)
6	幼児の運動能力と動き/運動遊びの意義と展開	自分が初めてできたことが何歳だったか調べる(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)
7	幼児期の健康的な生活リズムと基本的な生活習慣	就学前、就学後の自分に就寝、起床時間について調べる(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)
8	子どもの食と健康/食育について	自分の出身地(地域)の食文化について調べる(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)
9	安全の視点と安全への配慮について	リスクとハザードの違いについて調べる(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)
10	安全管理と安全教育について	公園にある遊具、公園から消えた遊具について調べる(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)
11	指導計画と指導案の書き方・作成	幼稚園教育要領、幼児期運動指針を精読する(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)
12	模擬保育の準備	幼児の学びを深めるために活用できる視覚教材等について調べる(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)
13	模擬保育の実践	指導案を精読し、グループで模擬保育の実践に備える(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)
14	模擬保育の振り返り	模擬保育の振り返りを行う(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)
15	保育内容「健康」の指導法のまとめ	領域「健康」について学んだことを整理する(120分) 授業内容を振り返り、まとめる(120分)

《専門科目》

科目名	保育内容「言葉」の指導法				
担当者氏名	北野 哲也				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP4 他者とのコミュニケーション能力も含めた表現力が身につけている。				

《授業の概要》

【保育士必修】【幼稚園教諭必修】

領域「言葉」の内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定し、ICTや事例映像を活用し保育の構想する方法を身につける。

《授業の到達目標》

1. 保育指針や教育要領、教育・保育要領等に共通に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。2. 幼児の発達や学びの過程を理解し「言葉」にかかわる指導場面を想定し、保育を構想する方法を身につける。3. 乳幼児の言葉を育む環境の理解と配慮を理解する。4. 選択した児童文化財を利用して保育に活用するための保育の立案ができるように個人及びグループで取り組む。

《成績評価の方法》

筆記試験 70% 振り返りレポート 10%  
 課題 5%  
 実技 5%  
 授業の取組 10% その他( ) %

《教科書》

保育内容「言葉」指導法 馬見塚昭久 小倉直子編著 ミネルヴァ書房

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

講義に関する資料及び課題、振り返り等を記入することで、求められる乳幼児の言葉の発達について理解を深め、グループによる振り返りの時間を設け、乳児から幼児への言葉の発達の理解を促します。

《成績評価基準》

成績評価は、筆記試験及び振り返り課題の提出、レポート、講義への積極的な参加・態度等を鑑み、評価します。

《参考図書》

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育保育要領及びその解説書、絵本や紙芝居、物語など

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	保育の基本と領域「言葉」との関係	保育の流れを知る：30分、領域「言葉」の内容を知る：30分
2	子どもの発達と言葉の関係 話し言葉	発話の発達過程を理解する：30分、言葉の発達過程を理解する：30分
3	子どもの発達と言葉との関係 書き言葉	書き言葉の発達過程を理解する：30分、書き言葉の発達過程を理解する：30分
4	言葉を育む環境と言葉意欲を育む環境	言葉遊びの理解を広げる：30分、遊びの方法について理解する：30分
5	言葉を育む環境と言葉ICTとの出会い	遊びの方法について考える：30分、楽しい遊びを考える：30分
6	言葉を育む環境と言葉話したい、聞きたい意欲	遊びの工夫について考える：30分、遊びを展開する方法について考える：30分
7	言葉を豊かにする環境構成 伝言遊び	言葉の伝達について考える：30分、言葉の遊びについて考える：30分
8	言葉を豊かにする環境構成 援助方法	遊びから得られる言葉の役割について理解する：30分、言葉遊びを考える：30分
9	言葉を豊かにする教材 絵本・物語・紙芝居	いろいろな絵本や紙芝居等に触れる：30分、季節や場にあった題材について理解する：30分、
10	言葉に対する感性を豊かにする実践 言葉遊び	いろいろな言葉あそびについて調べる：30分、言葉遊びを考える：30分
11	言葉を育む保育の実際 保育観察(DVD)	模擬保育について話し合う：30分、教材となる題材を考える：30分
12	言葉を育む保育の構想 グループ討議	模擬保育の計画を練る：30分、指導案について理解する：30分
13	言葉を育む保育の構想 グループ討議	模擬保育の実践からの反省：30分、指導案を再考する：30分
14	言葉を育む保育の実際 模擬保育	模擬保育の実践からの反省：30分、指導案を再考する：30分
15	まとめ、試験	「言葉」をめぐる現代的課題と特別な配慮が必要な園児への支援について学ぶ：30分

《専門科目》

科目名	保育内容「表現」の指導法				
担当者氏名	平山 隆浩、吉原 美南子				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP4 他者とのコミュニケーション能力も含めた表現力が身につけている。				

《授業の概要》

【保育士必修】【幼稚園教諭必修】

保育現場での表現活動について事例や視聴覚資料を使いながらレクチャーを行う。また、指導案の作成方法を身につけ模擬保育を行い、具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を身につける授業とする。授業時の表現活動や模擬保育の様子は随時記録し、振り返りやドキュメンテーションの作成において活用し、学びを深めるものとする。

《授業の到達目標》

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め説明することができる。
- ・幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想し創造することができる。

《成績評価の方法》

- レポート 20%
- 課題 40%
- 実技 30%
- 授業の取組 10%

《教科書》

「新訂 事例で学ぶ保育内容 領域表現」  
浜口順子 編者代表 萌文書林

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出課題は、2週間以内にコメントをつけて返却する。

《成績評価基準》

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め説明することができたか。
- ・幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想し創造することができたか。

《参考図書》

保育所保育指針解説  
幼稚園教育要領解説

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)	復習内容(時間)
1	5領域の表現とは、幼児期の表現活動について	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	1年後期「幼児と表現」の授業内容を振り返る 教科書等を読み直し、授業での気づきと合わせノートにまとめる
2	豊かな感性と創造性を育む環境構成のあり方	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	指定されたテーマで指導案を作成しておく 教科書等を読み直し、授業での気づきと合わせノートにまとめる
3	子どもの豊かな感性と造形表現について	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 教科書等を読み直し、授業での気づきと合わせノートにまとめる
4	子どもの豊かな感性と音楽表現について	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 教科書等を読み直し、授業での気づきと合わせノートにまとめる
5	模擬保育の計画と準備	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 教科書等を読み直し、授業での気づきと合わせノートにまとめる
6	模擬保育の計画と準備	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	模擬保育の自己課題を考えまとめておく 教科書等を読み直し、授業での気づきと合わせノートにまとめる
7	模擬保育 造形表現 模擬保育 音楽表現	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	指導案に基づいて、模擬保育の準備、リハーサルをしておく 模擬保育の反省点、改善策をラベル図解にまとめる
8	ドキュメンテーションの制作	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	ドキュメンテーション作成のための画像を整理し準備する ドキュメンテーション制作を通しての気づきをまとめる
9	模擬保育の振り返り	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 教科書等を読み直し、授業での気づきと合わせノートにまとめる
10	模擬保育の計画と準備	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 教科書等を読み直し、授業での気づきと合わせノートにまとめる
11	模擬保育の計画と準備	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	模擬保育の自己課題を考えまとめておく 教科書等を読み直し、授業での気づきと合わせノートにまとめる
12	模擬保育 造形表現 模擬保育 音楽表現	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	指導案に基づいて、模擬保育の準備、リハーサルをしておく 模擬保育の反省点、改善策をラベル図解にまとめる
13	ドキュメンテーションの制作	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	ドキュメンテーション作成のための画像を整理し準備する ドキュメンテーション制作を通しての気づきをまとめる
14	模擬保育の振り返り	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	これまで作成した指導案・ワークシートを振り返りまとめる 教科書等を読み直し、授業での気づきと合わせノートにまとめる
15	半期の学びの振り返り	予習内容(2時間) 復習時間(2時間)	これまでの学びをポートフォリオにまとめる 教科書等を読み直し、授業での気づきと合わせノートにまとめる

《専門科目》

科目名	障害児保育				
担当者氏名	三吉 愛子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。				

《授業の概要》

【保育士必修】  
「障害児保育」に引き続き、障害の理解を深め、具体的な支援内容・方法等を実践的に学ぶ。特に、保育現場で急増している発達障害児の理解と支援を中心に、事例等を活用しながら、保育現場で実際に役立つ配慮事項や環境調整の工夫など実践力の向上を図る。また、最新の実践研究等に関して、授業内容と関連させながら適宜提供する。

《授業の到達目標》

- ・「発達」について理解を深める。
- ・各障害の特性について説明できる。
- ・気になる子どもの背景を理解し、望ましい支援方法について説明できる。
- ・授業で学んだ支援方法を、実習等に生かすことができる。

《成績評価の方法》

筆記試験 80%  
授業の取組 20%

《教科書》

「障害児保育ワークブック」 編著 星山麻木 萌文書林 2019

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

試験問題に対する振り返りや解説の時間を設ける。

《成績評価基準》

- ・「発達」について理解が深まったか。
- ・各障害の特性について説明できるようになったか。
- ・気になる子どもの背景を理解し、望ましい支援方法について説明できるようになったか。
- ・授業で学んだ支援方法を、実習等に生かすことができたか。

《参考図書》

なし

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	なぜ、特別な支援が必要なのか	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
2	発達を理解する	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
3	発達の違いを理解する	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
4	障害の特性を理解する 1	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
5	障害の特性を理解する 2	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
6	支援方法を理解する 1 心の支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
7	支援方法を理解する 2 発達論による支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
8	支援方法を理解する 3 行動への支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
9	支援方法を理解する 4 環境調整による支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
10	支援方法を理解する 5 連携による支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
11	支援の方法を考える実践ワーク	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
12	個別的教育支援計画をつくる	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
13	ケーススタディ	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
14	保護者支援と今後の課題	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
15	障害児保育のまとめ	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)

《専門科目》

科目名	子どものためのピアノ表現				
担当者氏名	吉原 美南子、和田 紘平、室北 昌子、巢山 千恵、小柳 厚子、水崎 玄、横須賀 紋子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP4 他者とのコミュニケーション能力も含めた表現力が身につけている。				

《授業の概要》

1年生後期科目「子どものためのピアノ表現」と同様に、1クラス5～6名のグループに分け、グループごとに弾き歌いを中心とした個人レッスンをを行う。集団でのグループレッスンでは、バイエルの楽曲を中心に、さらなるピアノ技術の向上を目指す。各種実習でのピアノや弾き歌いの課題については、レッスンの中で指導を受けることができる。

《授業の到達目標》

- ・幼児の音楽教育で必要とされるピアノ演奏技術の習得にあたり、楽譜に書かれた速度記号、強弱記号、曲想を解釈し、ピアノで表情豊かに表現することができる。
- ・季節の歌やいろいろな歌のレパートリーを増やす。
- ・歌詞から情景をイメージし、歌詞の内容に合う音色で伴奏をしながら豊かな歌唱表現をすることができる。

《成績評価の方法》

- レポート 20%
- 実技 50%
- 授業の取組 30%

《教科書》

「教職課程のための大学ピアノ教本バイエルとツェルニによる展開」教育芸術社 「あなたも弾ける やさしい童謡唱歌集」木村 鈴代編著 同文書院

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

授業内での学び(個人レッスンでのアドバイス、自己反省を含む)、ピアノ練習計画(予習、復習、自主練習時間、曲名、気づき等)を音楽表現ノートに記入し、次の個人レッスンの授業時間に提出する。教員のコメント記入後、授業内に受け取り、次の授業に備える。

《成績評価基準》

表情豊かにピアノで表現できる：楽譜に書かれた用語の意味を解釈し、音として表現することができたか。  
 楽曲のレパートリーを増やす：自信を持って弾き歌いできる楽曲を増やすことができたか。(個人レッスンで合格曲を増やすことができたか)  
 歌詞の情景をイメージする：表情豊かに弾き歌いできたか。

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	予習:テキストの指定した楽曲を譜読みし、両手で弾いてくる(30分) 復習:レッスンで扱った楽曲を弾き込む。音楽表現ノートを記入する(30分)
2	弾き歌いの個人レッスン・ピアノのグループレッスン	予習:テキストの指定した楽曲を譜読みし、両手で弾いてくる(30分) 復習:レッスンで扱った楽曲を弾き込む。音楽表現ノートを記入する(30分)
3	弾き歌いの個人レッスン・ピアノのグループレッスン	予習:テキストの指定した楽曲を譜読みし、両手で弾いてくる(30分) 復習:レッスンで扱った楽曲を弾き込む。音楽表現ノートを記入する(30分)
4	弾き歌いの個人レッスン・ピアノのグループレッスン	予習:テキストの指定した楽曲を譜読みし、両手で弾いてくる(30分) 復習:レッスンで扱った楽曲を弾き込む。音楽表現ノートを記入する(30分)
5	弾き歌いの個人レッスン・ピアノのグループレッスン	予習:テキストの指定した楽曲を譜読みし、両手で弾いてくる(30分) 復習:レッスンで扱った楽曲を弾き込む。音楽表現ノートを記入する(30分)
6	弾き歌いの個人レッスン・ピアノのグループレッスン	予習:テキストの指定した楽曲を譜読みし、両手で弾いてくる(30分) 復習:レッスンで扱った楽曲を弾き込む。音楽表現ノートを記入する(30分)
7	弾き歌いの個人レッスン・ピアノのグループレッスン	予習:テキストの指定した楽曲を譜読みし、両手で弾いてくる(30分) 復習:レッスンで扱った楽曲を弾き込む。音楽表現ノートを記入する(30分)
8	中間発表会	予習:テキストの指定した楽曲を譜読みし、両手で弾いてくる(30分) 復習:中間発表会の成果と反省をまとめる。音楽表現ノートを記入する(30分)
9	弾き歌いの個人レッスン・ピアノのグループレッスン	予習:テキストの指定した楽曲を譜読みし、両手で弾いてくる(30分) 復習:レッスンで扱った楽曲を弾き込む。音楽表現ノートを記入する(30分)
10	弾き歌いの個人レッスン・ピアノのグループレッスン	予習:テキストの指定した楽曲を譜読みし、両手で弾いてくる(30分) 復習:レッスンで扱った楽曲を弾き込む。音楽表現ノートを記入する(30分)
11	弾き歌いの個人レッスン・ピアノのグループレッスン	予習:テキストの指定した楽曲を譜読みし、両手で弾いてくる(30分) 復習:レッスンで扱った楽曲を弾き込む。音楽表現ノートを記入する(30分)
12	弾き歌いの個人レッスン・ピアノのグループレッスン	予習:テキストの指定した楽曲を譜読みし、両手で弾いてくる(30分) 復習:レッスンで扱った楽曲を弾き込む。音楽表現ノートを記入する(30分)
13	弾き歌いの個人レッスン・ピアノのグループレッスン	予習:テキストの指定した楽曲を譜読みし、両手で弾いてくる(30分) 復習:レッスンで扱った楽曲を弾き込む。音楽表現ノートを記入する(30分)
14	弾き歌いの個人レッスン・ピアノのグループレッスン	予習:テキストの指定した楽曲を譜読みし、両手で弾いてくる(30分) 復習:レッスンで扱った楽曲を弾き込む。音楽表現ノートを記入する(30分)
15	ピアノ表現および弾き歌いの表現技術発表	予習:指定された楽曲の練習をする。(30分) 復習:授業での学びや反省点を音楽表現ノートに記入し、今後に活かす。(30分)

《専門科目》

科目名	子どもと造形表現				
担当者氏名	平山 隆浩				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP4 他者とのコミュニケーション能力も含めた表現力が身につけている。				

《授業の概要》

実習や保育現場で役立つ造形について、教材研究的に授業を進める。具体的には材料や道具の特性を活かすための工夫・設定保育のアイデアなどについて制作を通して学んでいく。またラベルワークを取り入れたグループワークを適宜取り入れ学びの共有化を図る。付箋を活用し日頃から五感で感じことや教材研究に使えるようなネタなどを集めるためのスキルを身につけるプログラムを実施する。

《授業の到達目標》

子どもたちの持つ素朴な創造性を引き出し、豊かな表現へと導くための理論と方法について理解を深める。  
身近な素材を用いてオリジナルの保育教材を創造することができる。  
ものづくりを通して自らの感性や創造性の現状に気づき磨くことができる。

《成績評価の方法》

筆記試験 % レポート 30%  
課題 50% 実技 %  
授業の取組 20%  
その他 ( ) %

《教科書》

適宜資料を配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

制作課題については、提出後に講評と個別指導を行う。  
学びのアート図解については、提出の翌週に講評を行う。  
レポート課題は、提出後コメントを添えて返却する。

《成績評価基準》

子どもたちの持つ素朴な創造性を引き出し、豊かな表現へと導くための理論と方法について理解を深めることができたか。  
身近な素材を用いてオリジナルの保育教材を開発することができたか。  
ものづくりを通して自らの感性や創造性の現状に気づき磨くための工夫を考え実践することができたか。

《参考図書》

保育所保育指針解説 厚生労働省編

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	保育教材研究とは何か	予習内容 シラバスを読み講義内容を把握する(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)
2	クレパスを使った 絵画制作	予習内容 クレパスを使った絵画技法について調べる(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)
3	動くおもちゃの制作 -飛ばす-	予習内容 動くおもちゃについて事前に調べる(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)
4	動くおもちゃの制作 -回す-	予習内容 動くおもちゃについて事前に調べる(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)
5	雨をテーマにした 教材研究 -アイデア-	予習内容 雨をテーマにした絵本や歌について調べる(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)
6	雨をテーマにした 教材研究 -制作-	予習内容 制作材料を自ら探す(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)
7	雨をテーマにした 教材研究 -発表-	予習内容 プレゼンテーションの準備(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)
8	夏をテーマにした おもちゃの制作	予習内容 夏をテーマにしたおもちゃのアイデアを考える(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)
9	昔話をテーマにした 絵画制作	予習内容 指定された昔話を読む(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)
10	切り絵による壁面構成 -イラストの書き方-	予習内容 色の組み合わせ方について調べる(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)
11	切り絵による壁面構成 -制作-	予習内容 空間配置について調べる(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)
12	オリジナル教材の開発 -制作-	予習内容 オリジナル教材のアイデアを考える(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)
13	オリジナル教材の開発 -発表-	予習内容 制作材料を自ら探す(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)
14	学びのアート図解作成	予習内容 付箋ノートを整理する(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)
15	まとめ -素朴な創造性と感性-	予習内容 保育所保育指針解説の指定された箇所を熟読する(30分) 復習内容 授業での気づきを付箋ノートにまとめる(30分)

《専門科目》

科目名	運動遊び				
担当者氏名	手嶋 孝司				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 広い視野で物事を捉え、感謝の心をもって積極的に学ぶ力をつけている。				

《授業の概要》

【保育士選択】乳幼児期の運動発達や運動学習過程、運動遊具や教材の扱い方などの知識を踏まえ、応用的な授業を行う。指導計画・指導案を作成する。

《教科書》

なし  
適宜資料を配付する。

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

課題や授業記録表等に関しては適宜、授業で解説する。

《授業の到達目標》

幼児期の発育・発達を理解し、新しい遊びを考案するなど、創造性豊かな遊びの実践力を養い、幼児が楽しく安全にできる運動遊びの指導ができる。また、子どもの健全な心身の成長・発達には、保育者自身が活発に体を動かして子どもたちと一緒に遊び楽しむために日頃から健康管理を心がける。

《成績評価基準》

幼児期の発育・発達を理解し、運動遊びを考案するなど楽しく安全に運動遊びの指導ができる。オリエンテーション時に説明する確認事項が実践できていること。授業内容を積極的に体験すること。グループでの活動では、積極的に参加(発言、行動)し、協力して活動できること。

《成績評価の方法》

レポート 30%  
課題 30%  
授業の取組 40%

《参考図書》

「幼児期運動指針ガイドブック」文部科学省  
「保育と幼児期の運動あそび」  
岩崎洋子編 大修館書店

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション/授業記録	子どもの運動発達について調べる(30分) 授業内容を振り返り、まとめる(30分)
2	発育発達段階に応じた運動遊びと指導法	幼児期運動指針を調べる(30分) 授業内容を振り返り、まとめる(30分)
3	基本的な運動(歩く・走る・跳ぶ)	次回の授業テーマについて調べる(30分) 授業内容を振り返り、まとめる(30分)
4	基本的な運動(跳び箱・マット・鉄棒)	次回の授業テーマについて調べる(30分) 授業内容を振り返り、まとめる(30分)
5	基本的な運動(SAQトレーニング)	次回の授業テーマについて調べる(30分) 授業内容を振り返り、まとめる(30分)
6	基本的な運動(サーキット遊び)	次回の授業テーマについて調べる(30分) 授業内容を振り返り、まとめる(30分)
7	用具を使った運動(フープ・スティック)	次回の授業テーマについて調べる(30分) 授業内容を振り返り、まとめる(30分)
8	用具を使った運動(パンブーダンス)	次回の授業テーマについて調べる(30分) 授業内容を振り返り、まとめる(30分)
9	用具を使った運動(ロープ/ダブルダッチ)	次回の授業テーマについて調べる(30分) 授業内容を振り返り、まとめる(30分)
10	集団遊び 鬼ごっこの運動内容・要素	次回の授業テーマについて調べる(30分) 授業内容を振り返り、まとめる(30分)
11	集団遊び パラパルーン(表現)	次回の授業テーマについて調べる(30分) 授業内容を振り返り、まとめる(30分)
12	集団遊び パラパルーン(表現)	次回の授業テーマについて調べる(30分) 授業内容を振り返り、まとめる(30分)
13	安全管理と教材管理	次回の授業テーマについて調べる(30分) 授業内容を振り返り、まとめる(30分)
14	指導計画(長期・短期/単元計画)	次回の授業テーマについて調べる(30分) 授業内容を振り返り、まとめる(30分)
15	まとめ	これまでの学習を整理する(30分) これまでの授業を振り返り、まとめる(30分)



《専門科目》

科目名	保育所実習				
担当者氏名	川畑 和也				
授業方法	実習	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。				

《授業の概要》

【保育士必修】

既習の教科や保育所実習の経験を踏まえ、保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深め、子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。そして、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。将来に向けて保育士として自己の課題を明確化する。

《授業の到達目標》

1. 保育所の役割や機能について、実践を通して理解を深める。  
 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。  
 3. 既習の教科や保育所実習の内容を踏まえ、保育及び保護者支援について総合的に理解する。  
 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解する。  
 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、実践に結びつけて理解する。  
 6. 実習における自己の課題を明確化できる。

《成績評価の方法》

実技 60%  
 事前・事後指導・実習報告会・提出物 40%

《教科書》

『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』（2017）小櫃智子・守 巧・佐藤 恵・小山朝子 わかば社

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

実習の直前指導で記入したワークシートは、事後指導時に返却する。  
 事後指導時に記入したワークシートは、実習報告会終了後に返却する。  
 実習終了後に提出した実習日誌については、評価した後随時返却する。

《成績評価基準》

1. 保育所の役割や機能について理解できたか。  
 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にし保育の理解できたか。  
 3. 保育及び保護者支援について理解することができたか。  
 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について理解することができたか。  
 5. 保育士の業務内容や職業倫理について理解できたか。  
 6. 実習における自己課題を明確化できたか。

《参考図書》

『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』（2015）小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子 わかば社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	予習:事前のオリエンテーションまでに、実習先の種別・内容等を理解する。(1時間) 復習:実習先での指導内容をまとめ、課題(指導案・教材)の準備をする。(1時間)
2	直前指導(1)	予習:様々な授業での学習、オリエンテーションの学びを総合的に振り返り、準備をする。(1時間) 復習:直前指導内容を再確認し、実習の目標を明確にする。(1時間)
3	直前指導(2)	予習:前回授業の内容を含め総合的に実習に備える。(1時間) 復習:実習への準備物などの最終チェックをする。(1時間)
4	実習1日目	予習:設定した目標に沿った観点から、実習に臨む準備をする。(1時間) 復習:実習を振り返り、日誌を記入、必要に応じて巡回担当に連絡をする。(1時間)
5	実習2日目	予習:設定した目標に沿った観点から、実習に臨む準備をする。(1時間) 復習:実習を振り返り、日誌を記入、必要に応じて巡回担当に連絡をする。(1時間)
6	実習3日目	予習:設定した目標に沿った観点から、実習に臨む準備をする。(1時間) 復習:実習を振り返り、日誌を記入、必要に応じて巡回担当に連絡をする。(1時間)
7	実習4日目	予習:設定した目標に沿った観点から、実習に臨む準備をする。(1時間) 復習:実習を振り返り、日誌を記入、必要に応じて巡回担当に連絡をする。(1時間)
8	実習5日目	予習:設定した目標に沿った観点から、実習に臨む準備をする。(1時間) 復習:実習を振り返り、日誌を記入、必要に応じて巡回担当に連絡をする。(1時間)
9	実習6日目	予習:設定した目標に沿った観点から、実習に臨む準備をする。(1時間) 復習:実習を振り返り、日誌を記入、必要に応じて巡回担当に連絡をする。(1時間)
10	実習7日目	予習:設定した目標に沿った観点から、実習に臨む準備をする。(1時間) 復習:実習を振り返り、日誌を記入、必要に応じて巡回担当に連絡をする。(1時間)
11	実習8日目	予習:設定した目標に沿った観点から、実習に臨む準備をする。(1時間) 復習:実習を振り返り、日誌を記入、必要に応じて巡回担当に連絡をする。(1時間)
12	実習9日目	予習:設定した目標に沿った観点から、実習に臨む準備をする。(1時間) 復習:実習を振り返り、日誌を記入、必要に応じて巡回担当に連絡をする。(1時間)
13	実習10日目	予習:設定した目標に沿った観点から、実習に臨む準備をする。(1時間) 復習:実習を総合的に振り返り、日誌を記入、お礼状も準備をする。(1時間)
14	事後指導	予習:目標達成、授業と実習の往還、必要な報告内容等、総合的に振り返る。(1時間) 復習:実習全般を総合的に振り返る。実習報告会の準備をする。(1時間)
15	実習報告会	予習:報告会に必要な準備物、報告内容を再度確認する。(1時間) 復習:報告会での学び、自己の振り返りから、次に活かす内容を考察する。(1時間)

《専門科目》

科目名	施設実習（施設・児童館）				
担当者氏名	吉原 美南子				
授業方法	実習	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。				

《授業の概要》

【保育士必修】  
各種施設、児童館での現地実習を通して、施設での業務内容、施設の役割、利用者への支援方法、記録方法など実践活動を通して学ぶ。施設で働く職員の資質を習得する。10日間の現地実習を実施する。

《教科書》

施設実習ガイド 保育所として成長するための事前事後学習  
駒井美智子編著 萌文書林

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

実習先の評価結果のフィードバックの時間を設ける。

《授業の到達目標》

1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえて、児童福祉施設などの役割や機能について実践を通して理解する。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障がい児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。
4. 実習における自己課題を理解する。

《成績評価基準》

1. 学内の学びや保育実習経験を踏まえ、実習施設の役割、機能について実践を通して理解できたか。
2. 子ども家庭福祉、社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得できたか。
3. 保育士の業務内容や職業倫理を具体的に理解できたか。
4. 実習における自己課題を理解できたか。

《成績評価の方法》

実技 60%  
その他(直前指導・事後指導・報告会・提出物) 40%

《参考図書》

「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」小櫃智子編著 わかば社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	予習:実習先の役割と機能について調べ、理解する。(1時間) 復習:実習先での学びをまとめ、理解し、準備物などを整える。(1時間)
2	直前指導	予習:保育士資格取得最終の実習であることを意識し準備をする。(1時間) 復習:既習の教科目、保育実習の経験を踏まえ、最終の実習準備をする。(1時間)
3	直前指導	予習:直前指導内容を熟知し、必要な準備物を整え、実習に備える。(1時間) 復習:既習の教科目、保育実習の経験を踏まえ、最終の実習準備をする。(1時間)
4	実習初日	予習:オリエンテーションでの学びを再確認し、理解を深める。(1時間) 復習:本日の反省をまとめ、実習先の役割と機能を実践を通して理解する。(1時間)
5	実習2日目	予習:本日の学びの目標を、受容と共感する態度のもと考える。(1時間) 復習:本日の反省をまとめ、考察する。(1時間)
6	実習3日目	予習:個人差、生活環境に伴う子どものニーズの把握、子ども理解を考える。(1時間) 復習:本日の反省をまとめ、考察する。(1時間)
7	実習4日目	予習:個別支援計画の作成と実践を考える。(1時間) 復習:本日の反省をまとめ、考察する。(1時間)
8	実習5日目	予習:子ども(利用者)の家族への支援と対応について考える。(1時間) 復習:本日の反省をまとめ、考察する。(1時間)
9	実習6日目	予習:多様な専門職との連携及び協働について考える。(1時間) 復習:本日の反省をまとめ、考察する。(1時間)
10	実習7日目	予習:地域社会との連携及び協働について考える。(1時間) 復習:本日の反省をまとめ、考察する。(1時間)
11	実習8日目	予習:保育士の多様な業務と職業倫理について考える。(1時間) 復習:本日の反省をまとめる。総合的に実習を振り返る。(1時間)
12	実習9日目	予習:保育士としての自己課題を考え、明確化する。(1時間) 復習:本日の反省をまとめ、9日間の実習を総合的に振り返る。(1時間)
13	実習10日目	予習:総合的に実習を省み、最終日に備える。(1時間) 復習:総合的に10日間の実習を振り返りまとめる。お礼状を準備する。(1時間)
14	事後指導	予習:実習全体を総合的に振り返る。(1時間) 復習:保育者としての自己課題を理解する。(1時間)
15	実習報告会	予習:報告会の準備をする。(1時間) 復習:自己の振り返り、報告会で得た学びを、自己課題解決に活かす。(1時間)

《専門科目》

科目名	保育実習指導（保育所）				
担当者氏名	川畑 和也、和田 紘平				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。				

《授業の概要》

【保育士必修】

実習に行くまでの必要な手続き・心構えについて学ぶ。  
 保育所実習 の学びをまとめ、報告会にて口頭発表を行う。  
 実習の記録の仕方について復習し、子どもを観察する力、自身の学びをまとめる力を養う。  
 指導案立案の演習を通して、責任実習に向けて応用力をつける。

《授業の到達目標》

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

《成績評価の方法》

レポート 25%  
 実技 25%  
 授業の取組 30%  
 実習に行くにあたり必要な書類の手続き 20%

《教科書》

『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』（2017）小櫃智子・守 巧・佐藤 恵・小山朝子 わかば社

《課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法》

授業において提出したワークシートについては2週間以内に返却する。  
 実習報告会及び指導案のプレゼンテーションについては、翌週の授業内で講評を述べる。

《成績評価基準》

1. 保育実習の意義と目的を明確に述べるができる。2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、指導案や日誌及び、自身の課題設定に反映することができる。3. 子どもの様子や保育士の配慮を観察し、気づきを述べるができる。4. 保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。5. 実習報告会にて自身の経験や課題を述べるができる。

《参考図書》

『施設実習ガイド-保育者として成長するための事前事後学習-』 駒井美智子編著 萌文書林

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション/選択実習依頼指導	1年次を振り返り、2年次前期の目標を立てる(30分) 次の実習までの流れを熟読する(30分)
2	実習報告会に向けて/保育所実習フィードバック	保育所実習 の振り返りシートを記入する(30分) 保育所実習 のエピソードを記入する(30分)
3	実習報告会に向けて/保育所実習フィードバック	保育所実習 を振り返り、事前に自己評価をする(30分) フィードバックを元に目標を立てる(30分)
4	実習報告会に向けて/日誌フィードバック	保育所実習 の実習報告会に向けてスライドを作成する(30分) 保育所実習 の実習報告会に向けてスライドを作成する(30分)
5	実習報告会に向けて/日誌フィードバック	教科書の該当ページを熟読する(30分) 日誌に関するワークシートを作成する(30分)
6	実習報告会に向けて/実習に向けた書類作成	事前オリエンテーションに関する書類の下書きを作成する(30分) 日誌に関するワークシートを作成する(30分)
7	実習報告会最終打ち合わせ	発表の内容や原稿をまとめる(30分) 報告会のワークシートを記入する(30分)
8	保育士に求められる資質と職業倫理	教科書の該当ページを熟読する(30分) フィードバック内容についてまとめる(30分)
9	指導案立案について	教科書の該当ページを熟読する(30分) 指導案に関するワークシートを記入(30分)
10	指導案立案について	教科書の該当ページを熟読する(30分) 指導案の下書きを作成する(30分)
11	指導案立案について	教科書の該当ページを熟読する(30分) 指導案の下書きを作成する(30分)
12	指導案プレゼンテーション準備	指導案の作成及び教材の準備を行う(30分) ワークシートをまとめる(30分)
13	保育士としての自己課題の明確化	2年次の目標・計画について振り返りを記入する(30分) 保育所実習 の目標を立てる(30分)
14	指導案のプレゼンテーション	指導案及び教材を作成し、発表内容をまとめる(30分) ワークシートをまとめる(30分)
15	保育所実習 直前指導	実習の心得を熟読する(30分) 実習までの課題に取り組む(30分)

《専門科目》

科目名	保育実習指導（施設・児童館）				
担当者氏名	吉原 美南子、高丘 有季乃				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。				

《授業の概要》

【保育士必修】保育実習による総合的な学びとして、子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解、子どもの保育と保護者支援を学ぶ。子ども(利用者)の状態に応じた適切な関わり、保育の知識・技術を活かした保育実践力の育成。保育の全体計画に基づく具体的計画、実践、観察、記録、自己評価に基づく保育の改善。保育士の専門性と職業倫理。事後指導における実習の総括と自己評価、課題の明確化を行う。

《授業の到達目標》

1. 保育実習の意義と目的を理解し保育を総合的に理解する。
2. 実習、学内の学びを踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解し、保育士の専門性と職業倫理について理解する。
4. 実習の事後指導を通して、実習の総括、自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

《成績評価の方法》

レポート 25%  
 実技 25%  
 授業の取組30%  
 その他（書類の手続きを含む）20%

《教科書》

施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習  
 駒井美智子編著 萌文書林

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

レポート課題の内容に関する解説時間を設ける。  
 授業内提出のワークシートについては2週間以内に返却する。  
 実習報告会及び指導案のプレゼンテーションについて翌週の授業にて講評を述べる。

《成績評価基準》

1. 保育実習の意義と目的を総合的に理解できたか。
2. 実習、学内の学びを踏まえ、保育の実践力を習得できたか。
3. 保育の観察、記録等を踏まえ、実践や事例を通し保育士の専門性と職業倫理について理解できたか。
4. 実習の事後指導を通して、実習の総括、自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできたか。

《参考図書》

小櫃智子「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」わかば社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション 選択実習依頼指導	予習:1年次の保育実習指導を振り返る。次の実習に向けて目標・計画を考える。(30分) 復習:次の実習に向けて、流れ・手続き等を熟知する。(30分)
2	保育実習 報告会に向けて① フィードバック①	予習:保育実習 の振り返りシートを記入する。(30分) 復習:保育実習 のエピソードをまとめる。(30分)
3	保育実習 報告会に向けて フィードバック	予習:保育実習 の振り返りから自己評価を考える。(30分) 復習:保育実習 の自己評価を基に改善策を考え、次の目標を立てる。(30分)
4	保育実習 報告会に向けて フィードバック	予習:保育実習 の報告会に向けて準備をする。(30分) 復習:報告会に向けて、スライドを作成する。(30分)
5	保育実習 報告会に向けて フィードバック	予習:保育実習 の報告会に向けて準備をする。(30分) 復習:報告会に向けて、発表内容を精査する。(30分)
6	実習報告会の準備 実習書類作成	予習:保育実習 の報告会に向けて準備をする。(30分) 復習:報告会に向けて、発表内容をまとめる。(30分)
7	実習報告会の最終準備	予習:グループで協働して発表の準備をする。(30分) 復習:報告会での学びをまとめ、自分の実習を総括し自己課題を明確化する。(30分)
8	施設保育士に求められる 資質と職業倫理	予習:保育士の資質と職業倫理についてまとめる。(30分) 復習:自分の実習経験から得られた保育士の資質と職業倫理について考える。(30分)
9	指導案の立案について①	予習:指導案について実習での学びを踏まえ、教科書を読み返す。(30分) 復習:指導案の内容を考え、下書きする。(30分)
10	指導案の立案について	予習:責任実習の指導案立案を考える。(30分) 復習:実習での指導案立案を踏まえ、自己課題と改善策を考える。(30分)
11	指導案の立案について	予習:立案した指導案の改善箇所を検討する。(30分) 復習:他の授業などで学んだ内容を反映させ、指導案を改良する。(30分)
12	指導案プレゼンテーション準備	予習:様々な授業で学んだ内容を活かし、指導案の内容を充実させる。(30分) 復習:指導案を仕上げ、練習を重ねる。(30分)
13	施設保育士としての自己 課題の明確化	予習:最後の実習に向けて、自己の課題を再認識し、目標や計画を見直す。(30分) 復習:実習での総合的な学びを具体的に理解し、実習目標を立てる。(30分)
14	指導案のプレゼンテーション	予習:プレゼンテーションの準備を行い、保育実践に必要な知識・技術を確認する。(30分) 復習:プレゼンテーションの自己評価から課題・改善策を明確化する。(30分)
15	保育所実習 直前指導	予習:実習の準備を計画的に行い、実習の心得を熟読、理解する。(30分) 復習:実習準備の最終チェックを行い、保育士資格取得最後の実習に備える。(30分)

《専門科目》

科目名	教育実習指導				
担当者氏名	平山 隆浩、溝上 敦子、下稻 美里、高丘 有季乃				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・通年（前期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。				

《授業の概要》

【幼稚園教諭必修】

教育実習に係る事前指導と事後指導を行う。  
 実習終了後は、PDCAサイクルシートを活用し自己課題を明確にする。また、1・2年生合同でグループワーク形態の実習報告会を行い、学びの共有化を図る。  
 授業と実習の経験を総合的に省察し、就職後の自分をイメージして幼児教育の学びを確かなものにする。

《授業の到達目標》

1.教育実習の意義や目的を理解するとともに、教育実習に関する自己課題を具体的に表現することができる。 2.教育実習に関する手続きや書類作成など、実習までの準備を確実に遂行することができる。 3.第1・2回教育実習終了後、自己課題の評価を的確に行い、成果と課題を教育実習報告会で報告することができる。 4.教育実習後、自らの実習を総合的に点検し、省察して自己課題を整理し具体的に述べるができる。

《成績評価の方法》

筆記試験 0% レポート 30%  
 課題 30% 実技 0%  
 授業の取組 20%  
 その他 ( ) 20%

《教科書》

『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』小櫃智子（編）わかば社

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

実習の手続きに関する書類は回収し、添削して適宜指導を行う。  
 課題やレポートについては、第1回及び第2回教育実習報告会終了後に評価して返却する。

《成績評価基準》

授業や実習に意欲的に参加できるか。  
 実習の手続きに関する書類や課題等に真摯に取り組み、留意事項を守って、期日までに提出ができるか。  
 本授業で学んだことを自分の言葉で説明したり、述べたりすることができるか、授業の到達目標である4点が達成できているか。

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館  
 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』小櫃智子（編）わかば社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	予習内容 「教職課程履修内規」(学生便覧)に目を通す(30分) 復習内容 事前訪問書類、課題「実習園の概要」に取り組む(30分)
2	教育実習に必要な心構えと準備	予習内容 参考書(パーフェクトガイド)pp.18-25を熟読し、整理する(30分) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(30分)
3	実習の目標と自己課題の設定	予習内容 参考書(パーフェクトガイド)pp.26-29を熟読し、整理する(30分) 復習内容 授業を振り返り、実習に向けて自己課題を整理する(30分)
4	観察の仕方とメモの取り方	予習内容 これまでの実習から観察の仕方やメモのポイントを振り返る(30分) 復習内容 再度観察の仕方やメモのポイントについて整理する(30分)
5	実習日誌の意義と書き方	予習内容 教科書pp.12-13を熟読し、整理する(30分) 復習内容 実習日誌の表紙、pp.1-3を下書きして清書する(30分)
6	第1回教育実習直前指導	予習内容 実習に向けての準備をする(30分) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(30分)
7	第1回教育実習事後指導、実習の自己評価	予習内容 お礼状の書き方を確認し作成する(30分) 復習内容 第2回教育実習に向けて再度自己課題を整理する(30分)
8	実習報告会の準備、第2回教育実習の準備	予習内容 実習報告会に向けて、学んだことや自己課題を整理する(30分) 復習内容 事前訪問書類を作成する、第2回教育実習先に電話依頼をする(30分)
9	第1回教育実習グループ内報告会	予習内容 実習報告会に向けて、発表することをまとめる(30分) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(30分)
10	実習の目標と自己課題の設定	予習内容 参考書(パーフェクトガイド)pp.18-19を熟読し、整理する(30分) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(30分)
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	教育実習				
担当者氏名	平山 隆浩				
授業方法	実習	単位・必選	4単位・選択	開講年次・開講期	2年・通年（前期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。				

《授業の概要》

【幼稚園教諭必修】1年次における学修を通して身に付けた知識・技能を活用して、総合的に実践する体験的な学習を行う。第1回教育実習及び第2回教育実習を PDCA の連続的な転回とし、総合的な実践力を育成する。事前指導では、教育実習生としての自覚を持ち、教育活動に参画する意識を高める。教育実習生として、観察実習、参加実習、責任実習を体験する。事後指導では、実習の体験から成果と課題を省察する。

《授業の到達目標》

1. 実習生としての役割を果たし、積極的に質問をし、意欲的に学ぶことができる。2. 子どもと積極的にかかわり、子どもの人権・人格を尊重して実習を行うことができる。3. 幼稚園の機能・教師の役割について理解し、進んで協力し自分の役割を果たすことができる。4. 実習を振り返って自己評価を行い、今後の自己課題を具体的に見出すことができる。

《成績評価の方法》

実技(実習園評価) 60%  
授業の取組(事前事後指導提出物等) 40%

《教科書》

『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』  
小櫃智子(編) わかば社  
『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

教育実習日誌の返却については、全員提出後に評価し、第1回分は第2回教育実習直前指導の時間に、第2回分は教育実習指導の第15回で返却する。

《成績評価基準》

1. 実習生としての役割を果たし、積極的に質問をし意欲的に学ぶことができたか。2. 子どもと積極的にかかわり、子どもの人権・人格を尊重して実習を行うことができたか。3. 幼稚園の機能・教師の役割について理解し、進んで協力し自分の役割を果たすことができたか。4. 実習を振り返って自己評価を行い、今後の自己課題を具体的に見出すことができたか。

《参考図書》

各授業の教科書

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	第1回教育実習 直前指導	実習前の予習内容(5時間) 事前オリエンテーションにおいて、実習園の先生からの事前指導を把握し、実習園の教育・指導方針を理解する。
2	第1回教育実習 10日間 自己課題を設定する	実習前の予習内容(5時間) 事前指導を踏まえ、指導計画の立案、ピアノの練習、教材準備等を行う。
3	第1週：園の一日の流れ を理解する	実習前の復習内容(2時間) 事前の依頼訪問時及び実習前オリエンテーション訪問で受けた指導内容を整理する。
4	第1週：園児の園での 生活を観察する	実習中の予習内容(毎日2時間) 毎日、日々の自己課題(個別課題)を設定し、指導計画の立案、ピアノの練習、教材準備等を行う。
5	第2週：指導計画の作成	実習中の復習内容(毎日2時間) 毎日の実習終了後に実習日誌に記録を記入し、実習内容を振り返る
6	第2週：部分保育や設定 保育を担当する。	実習後の予習内容(毎日2時間) 実習日誌を整理する。自己課題等のワークシートを整理する。
7	第1回教育実習事後指導	実習後の復習内容 次の実習や就職に向け、自分に不足している専門的知識や保育技術について把握し自主的に学んでいく
8	第2回教育実習 直前指導	実習前の予習内容(5時間) 事前オリエンテーションにおいて、実習園の先生からの事前指導を把握し、実習園の教育・指導方針を理解し、課題・教材等の準備する。
9	第2回教育実習 10日間 自己課題を設定する	実習前の復習内容(2時間) 事前の依頼訪問時及び実習前オリエンテーション訪問で受けた指導内容を整理する
10	第1週：幼稚園の機能と 教師の役割を理解する	実習中の予習内容(毎日2時間) 毎日、日々の自己課題(個別課題)を設定し、指導計画の立案、ピアノの練習、教材準備等を行う。
11	第1週：第1回教育実習の 反省を踏まえて実習する	実習中の復習内容(毎日2時間) 毎日の実習終了後に実習日誌に記録を記入し、実習内容を振り返る
12	第2週：積極的に質問を し意欲的に学ぶ。	実習後の予習内容(毎日2時間) 実習日誌を整理する。自己課題等のワークシートを整理する。
13	第2週：導入・展開の技 術を身につける。	実習後の復習内容 次の実習や就職に向け、自分に不足している専門的知識や保育技術について把握し自主的に学んでいく。
14	第2回教育実習事後指導	実習後の予習内容 教育実習報告会に向けて準備する。
15	教育実習報告会に向けて 学びを整理する。	実習後の復習内容 教育実習報告会でのプレゼンテーションを通して、あらためて気づいた課題について整理する。

《専門科目》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	富永 明子、平山 隆浩、吉原 美南子、溝上 敦子、川畑 和也				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年（前期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 広い視野で物事を捉え、感謝の心をもって積極的に学ぶ力をつけている。 1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。				

《授業の概要》

各教員の専門性に関連する内容の中で、それぞれが研究テーマを設定し、1年を通して応用的、探索的に研究を行う。14回目には卒業研究中間報告会を開催し、各ゼミにおける取り組みを発表する。

《教科書》

ゼミごとに指定する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

ゼミごとに指定する

《授業の到達目標》

1. 保育者としての専門的知識と基礎スキルを、ゼミナール形式の演習を通して身につける
2. 自ら課題を設定し、主体的に学び、テーマについて探求することができる
3. ゼミ活動を通して、保育者として求められる他者との協働性や協調性を身につける

《成績評価基準》

- ・保育者としての専門的知識と基礎スキルを身につけることができたか。
- ・自ら設定した課題について主体的に学び、テーマについて探求したか。
- ・ゼミ活動を通して、保育者として求められる他者との協働性や協調性を身につけることができたか。

《成績評価の方法》

筆記試験 % レポート %  
課題 70% 実技 %  
授業の取組 30%  
その他 ( ) %

《参考図書》

ゼミごとに指定する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	卒業研究とは	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
2	研究テーマの設定	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
3	研究テーマプレゼンテーション	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
4	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
5	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
6	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
7	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
8	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
9	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
10	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
11	中間のまとめ	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
12	中間のまとめ	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
13	卒業研究中間報告会準備	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
14	卒業研究中間報告会	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
15	前期のまとめ	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)

《専門科目》

科目名	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法				
担当者氏名	片本 仁				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。				

《授業の概要》

児童館・放課後児童クラブの役割や活動の流れの理解  
健全育成につながる行事等の企画立案の方法を学ぶ  
ソーシャルワークをベースとした発達段階に応じた子ども理解  
と支援の方法、基本的活動の実施方法を学ぶ

《教科書》

児童健全育成財団「児童館論」  
1年時と使用分を引き続き使用

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

子どものニーズに基づいた行事の企画・立案・発表を実施、講評する。

《授業の到達目標》

- 1、児童館の役割や児童館・放課後児童クラブにおける健全育成の理解。
- 2、児童会館・放課後児童クラブにおける活動の流れを理解し、行事の企画・立案ができるようになる。
- 3、発達段階に応じた子ども理解を深め、ソーシャルワークをベースとした居場所づくりや遊びを通しての支援ができるようになる。

《成績評価基準》

あそびを通じた子どもの健全育成について理解している事  
健全育成につながる、遊びのプログラム、行事の企画立案ができる事

《成績評価の方法》

行事の企画・立案・発表 50%  
課題 40%  
授業の取組 10%

《参考図書》

プリント等の配布資料

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	予習:1年に学習した、「児童館・放課後児童クラブの機能と運営」について資料やノートの見ないし等により復習しておく。復習:講義で学んだ内容について見直しや復習
2	あそびを通じた児童の健全育成	予習:健全育成とは何かについて調べておく 復習:講義で学んだ内容について見直しや復習
3	児童館・放課後児童クラブの流れと活動のねらい	予習:児童館でどのような事を行っているか調べておく 復習:講義で学んだ内容について見直しや復習
4	児童館、放課後児童クラブにおける環境構成	予習:子どもにとっての安全・安心して遊べる場とはどんな場所か調べておく 復習:講義で学んだ内容について見直しや復習
5	子育て支援の活動	予習:様々な市町村において行われている子育て支援プログラムを調べておく 復習:講義で学んだ内容について見直しや復習
6	小学生の仲間づくり・居場所づくり	予習:小学生を対象に行われている事業でどのようなものが行われているか調べておく 復習:講義で学んだ内容について見直しや復習
7	中高生の居場所づくりを支援	予習:居場所とは何かを調べておく、また、あなたにとっての居場所をまとめておく 復習:講義で学んだ内容について見直しや復習
8	児童館・児童クラブにおける生活・学習支援	予習:子どもの福祉的課題は何かを調べておく 復習:講義で学んだ内容について見直しや復習
9	保護者、学校、地域との連携/ボランティア育成	予習:子どもを取り巻く社会的な環境(組織や団体、個人)を調べておく 復習:講義で学んだ内容について見直しや復習
10	児童館、児童クラブにおけるグループワーク	予習:自分が関わった集団や組織はどんなところがあるかまとめておく 復習:講義で学んだ内容について見直しや復習
11	児童館、放課後児童クラブにおけるケースワーク	予習:子どもたちの状況や課題(憂い)を調べておく 復習:講義で学んだ内容について見直しや復習
12	あそびを通じた支援の実施/プログラムづくり等	予習:子どもたちを対象にした健全育成につながる行事の実際を調べておく 復習:講義で学んだ内容について見直しや復習
13	ニーズに基づいた行事やイベントの企画・立案	予習:配布した資料を読みこみ、事業に企画の方法について確認しておく 復習:講義で学んだ内容について見直しや復習
14	企画発表会、講評	予習:企画したプログラム案を整理、発表準備 復習:講義で学んだ内容について見直しや復習
15	総括・まとめ	予習:これまでの講義のノートや資料等を読み込んでおく



《専門科目》

科目名	レクリエーション実技				
担当者氏名	川畑 和也				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP4 他者とのコミュニケーション能力も含めた表現力が身につけている。				

《授業の概要》

レクリエーション実技Iで学んだ技術を活かし、演習を行う。対象や目的に合わせたレクリエーション活動の選択を支援案の作成を通して、プログラムの展開、指導方法などの技術を学ぶ。また、子どもだけでなく、高齢者や障がい者に対するレクリエーションの技術を習得し、ふりかえりを行うことで今後の活動に活かす。

《教科書》

『楽しさを通した心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法』（2017年）日本レクリエーション協会（レクリエーション概論で使用了もの）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出課題等は評価・フィードバックをした上で返却を行う。

《授業の到達目標》

- 1 レクリエーション支援者として必要とされる指導法を身に付け、自らレクリエーション活動を工夫、発展させていくことができる。
- 2 目的・対象に合わせてレクリエーションプログラムの企画・実施ができる。
- 3 集団や個人、環境に応じた多様なレクリエーション活動プログラムの展開方法を身につける。

《成績評価の方法》

課題 30%  
実技 50%  
授業の取組 30%

《成績評価基準》

- 1 個々の指導法を身に付け、レクリエーション活動を工夫、発展させることができる。
- 2 目的・対象に合わせてレクリエーションプログラムの企画・実施ができる。
- 3 集団や個人、環境に応じた多様なレクリエーション活動プログラムの展開ができる。

《参考図書》

『レクリエーション支援の基礎～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～』（2007年）日本レクリエーション協会 など

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション/レクリエーションの展開	レクリエーション実技 の内容を振り返る(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
2	レクリエーション活動の実際	ネイチャーゲームについて調べて、まとめる(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
3	レクリエーション活動の実際	ニュースポーツの指導方法について調べて、まとめる(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
4	レクリエーション活動の実際	自然体験活動について調べる(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
5	プログラムの立案	プログラム立案に必要なレク財について調べる(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
6	レクリエーション支援の実際	支援案を元に、練習、準備、ふりかえりを行う(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
7	レクリエーション支援の実際	支援案を元に、練習、準備、ふりかえりを行う(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
8	レクリエーション支援の実際	支援案を元に、練習、準備、ふりかえりを行う(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
9	レクリエーション支援の実際	支援案を元に、練習、準備、ふりかえりを行う(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
10	レクリエーション支援の実際	支援案を元に、練習、準備、ふりかえりを行う(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
11	レクリエーション支援の実際	支援案を元に、練習、準備、ふりかえりを行う(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
12	レクリエーション支援の振り返り	支援経験を元にふりかえりを行う(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
13	季節に合わせた活動	季節に合わせた活動について、どのようなものがあるか調べる(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
14	季節に合わせた活動	季節に合わせた活動について、どのようなものがあるか調べる(30分) 今回の授業内容の復習(30分)
15	まとめ	支援者として求められる資質や知識について調べて、まとめる(30分) 今回の授業内容の復習(30分)